

会 議 記 録			
会議の名称	予算特別委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 鈴木
日時	平成30年3月19日（月曜日）		開 議 午前 11 時 20 分 閉 議 午前 11 時 32 分
出席委員	◎石野 ○藤本 酒井 富谷 小川 奥村 田中 並河 齊藤 木曾 明田 西口 <湊議長> <小松副議長>		
執行機関出席者			
事務局出席者	片岡事務局長、山内次長、鈴木議事調査係長、池永主任、山末主事		
傍聴	市民0名	報道関係者1名	議員0名（―）

会 議 の 概 要

11 : 20

1 開議

〔石野委員長 開議〕

2 第1号議案審査

【市長質疑項目検討】

<議会事務局長>

金曜日に配付した表と変更した部分について説明する。2番目のふるさと力向上経費の論点①について、金曜日の資料では「執行部が特定の目的のために寄附金を募って事業を実施しようとする場合に」に続けて、「議会として、これにどのようにかかわっていくのか」という文言であったが、「議会に対する事前説明等をどのように考えているのか」と変更した。次に、9番目の「公の施設について、適切な管理運営がなされているのか」について、執行部から具体的な内容を上げてほしいという意見があり、委員間討議で出た分として、「公の施設」の後に、括弧書きで「(老人福祉センター、東別院グラウンド、松熊集会所等)」という文言を入れた。なお、松熊教育集会所については、貸館業務は行っていない。

<石野委員長>

説明のとおりとするがよいか。

—全員了—

【今後の予算特別委員会のあり方について】

<酒井委員>

これまでの審査で出てきたことと、出ていないが最初からあった方が議論を深めるのに役に立つと思われることについて提案する。1つは、随意契約理由の一覧表を資料として議会に出す必要があると考える。次に、市の施設の減免や目的外使用を許可している一覧表を出すべきである。これについては議会資料としてではなく、ホームページに公開されている自治体もある。次に、先日障害福祉課が出したような、何をどれだけコスト削減したかがわか

る資料を各課から提出いただき、委員会の冒頭で所管部ごとに説明されたい。

<小川委員>

事業の見直し一覧表が審査において非常にわかりやすかったので、出していただきたい。執行部に対しての要望である。

<酒井委員>

ふるさと寄附金は、一度基金に積み上げるが、どこにどれだけ措置されたかが資料ではわからないので、一覧表があればよいと思う。特定の事業の目的とそれ以外のものとして集めている部分があるが、そういったものがすべてわかるようにしていただきたい。

<木曾委員>

委託先についての質疑が多かった。審査に一番大事だと思うので、質問なくとも、その委託先が資料に記載されていればすぐにわかるので、整理していただきたい。

<藤本副委員長>

現在は予算と決算を別々で審査しているが、今議会で通年議会を6月から実施することが決定されれば、同じメンバーで予算決算特別委員会を設置すればよいのではないか。指摘要望に対して予算でどのように対応したのか、充実させたのか、または減らしたのか等について、その理由も含めて聞けば、わかりやすくなると思う。議会運営委員会で検討すればよいと考える。

<酒井委員>

資料の5点について、予算特別委員会から上げていただきたい。また、予算審査のスケジュールや申し合わせ事項に縛られて、なかなか議論しにくいところがあったので、今回の経緯を踏まえて議論していただきたい。

<木曾委員>

審査のあり方については、予算と決算で基本的な審査方法が違うので、難しいと思う。決算は各分科会においてきめ細かく質疑し、次年度に申し送っている。指摘要望の対応を予算特別委員会で報告してもらっているものの、所管分ことはわかるが、それ以外の分はわかりにくいところがある。きめ細かく時間をかけてやろうと思えば、予算も決算と同じ分科会方式とするのがよい。これから通年議会を導入するので、余裕を持ってやったほうがよいと思う。

<石野委員長>

それでは、酒井委員、小川委員、木曾委員、藤本委員の意見について、今後、議会運営委員会で検討するように、予算特別委員会として上げることとする。明日は、午後1時から再開する。

11 : 32